

令和7年1月9日

業務完了報告書

鳴門教育大学大学院学校教育研究科幼児教育コース

田村 隆宏

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) 令和6年度:「日本型幼児教育」

(英文) Japanese-style early childhood education

(2) 研修期間 令和6年10月15日～令和6年12月10日

(※研修終了日は当初の予定は12月18日であったが,12月10日で急遽帰国となった。
ただし,研修内容については十分に目標達成している。)

(研修履行期間 令和6年9月2日～令和7年1月31日)

(3) 研修員数 1人

2. 研修内容(添付)

(1) 日程表

3. 案件目標(アウトカム)と単元目標(アウトプット)の達成度

(1) 案件目標(アウトカム)

「環境を通して幼稚園教育の基本的視点から日本の幼児教育を理解し,パラグアイの保育実践に応用できる点を見出す。」

指標:研修員がプログラムの課題として,日本型幼児教育の理念,現状を理解し,パラグアイの保育実践に取り入れられる利点を究明し,具体的な保育実践案を考案し,研修後は所属組織の中でその保育実践が試行される予定になっている。

達成度:プログラムで提供された活動の中で提出された課題の内容において,上記内容が明記されていることが確認された。

(2) 単元目標(アウトプット)

単元目標①:日本型幼児教育の基本である,環境を通して行う保育の理念や,その具体的な保育実践について理解する。

指標= 関連する授業,演習,保育観察の事後課題において,その理念や具体的な保育実践のあり方について説明できる。

単元目標②: 日本型幼児教育の基本である, 幼児の主体的活動を促すことの大切さについて理解する。

指標＝ 関連する授業, 演習, 保育観察の事後課題において, 幼児の主体的活動を促すことの大切さについて十分に説明できる。

単元目標③: 現在の日本型幼児教育で重視されている「幼稚園教育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解し, その重要性を深く理解する。

指標: 関連する授業, 演習, 保育観察の事後課題において, 「幼稚園教育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の大切さについて十分に説明できる。

単元目標④: 上述の(①～③)を達成しつつ, 日本型幼児教育の理念や具体的な実践を参考にして, パラグアイにおける保育カリキュラム, 及び具体的な保育実践の改善を図る施策やプログラムを計画する。

指標: 日本型幼児教育の取り組みを参考にして, パラグアイにおける保育カリキュラム・保育実践に係る取り組みの改善を図る施策案やプログラム案が提示される。